

# 松本英紀教授 略歴と著書・論文目録

## 略 歴

- 一九四四年三月二日 岡山県玉野市に生まれる（本籍地 香川県）  
一九六二年三月 香川県立観音寺第一高等学校卒業  
一九六二年四月 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻入学  
一九六六年三月 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻卒業  
一九六六年四月 立命館大学大学院文学研究科東洋思想専攻修士課程入学  
一九六九年三月 立命館大学大学院文学研究科東洋思想専攻修士課程修了

## 職歴および研究歴

- 一九八〇年四月 立命館大学文学部助教  
一九八九年四月 立命館大学文学部教授（現在に至る）  
二〇〇一年九月 立命館大学より学位・博士（文学・立命館大学）を授与される  
この間、前後して立命館大学文学部非常勤講師、京都大学人文科学研究所非常勤講師、仏教大学文学部非常勤講師、種智院大学文学部非常勤講師、大谷大学文学部非常勤講師を勤める

- 一九七一年九月 京都大学人文科学研究所共同研究班班員となる（小野川秀美班長・辛亥革命研究班、狭間直樹班長・五四運動研究班、国民革命研究班）一九八八年八月まで  
一九八一年十月 辛亥革命七十周年記念国際討論会（北京・武漢・広州）に参加、研究報告  
一九八一年十月 辛亥革命と国際関係国際会議（東京）に参加、コメンテーター  
一九八五年十一月 孫中山研究日中国際学術討論会（神戸）に参加、研究報告

一九八六年十二月

孫中山和他的時代國際討論會（広州）に参加、研究報告

一九八七年四月

宋教仁生誕一〇五周年紀念學術討論會（湖南・桃源）に参加、研究報告

一九八八年七月

財団法人孫中山記念会學術会員を委嘱される

一九八八年九月

中国浙江省杭州大学高級研究員（一九八九年六月に帰国）

一九九〇年十一月

『宋教仁の日記』（同朋舎出版 一九八九年）によって毎日新聞、（社）アジア調査会主催第二回アジア・太平洋賞特別賞を受ける

一九九七年十一月

孫文生誕一三〇周年紀念國際學術シンポジウム（神戸）に参加、コメンテーター

## 著書・訳著

『辛亥革命の研究』（共著）筑摩書房 一九七八年一月

『紀念辛亥革命七十周年學術討論會論文集』下冊（共著）中華書局 一九八三年六月

『孫中山研究日中国際學術討論會報告集』（共著）法律文化社 一九八六年十一月

『孫中山和其時代―孫中山研究國際學術討論會文集』上冊（共著）中華書局 一九八七年十月

『宋教仁紀念專輯』（共著）湖南省桃源県政協委員会 一九八七年三月

『アジアの歴史と文化』5 中国史―近代・現代（共著）同朋舎出版 一九九五年三月

『中国歴史学の新しい波―辛亥革命研究について―』（共著）霞山会 一九八六年二月

『宋教仁の研究』（単著）晃洋書房 二〇〇一年一月

『宋教仁の日記―訳稿「我之歴史」―』（一）～（五）（単訳）『立命館文学』一九七五年八、九月三六二、三六三号～一九七七年六、七月三八四、三八五号

『宋教仁の日記』（単訳）同朋舎出版 一九八九年十一月

『甘峰著 安福国会と段祺瑞』（単訳）『孫文研究』十二一九九〇年十二月

『危機に瀕した中国の教育』上下（共訳）『東亜』一九九二年一月、二月号

『毛沢東・謎の十二日間』（共訳）悠思社 一九九二年七月

## 論文

- 「五四時期における陳独秀の儒教批判」『立命館文学』二九九号 一九七〇年十月
- 「宋教仁と「閩島問題」——「愛国」的革命運動の軌跡——」『立命館文学』四一八〜四二二号（『三田村博士古稀記念東洋史論叢』）一九八〇年八月
- 「中華民國臨時約法の成立と宋教仁」『立命館史学』二号 一九八六年十一月
- 「二十一個条問題と孫文」『立命館文学』五〇三号 一九八七年十月
- 「孫文の日中提携論をめぐって」『季刊中国研究』七号 一九八七年十月
- 「革命家と国境紛争——宋教仁「致李・胡二星使書」をめぐって——」『立命館史学』八号 一九八七年十一月
- 「中国近代人物の重新評価——論宋教仁討論会」『辛亥革命研究会通讯』第三二期 一九八八年
- 「革命・愛国・節操——読宋教仁《致李・胡二星使書》」『湖南師範大学学報（社会科学版）』第六期 一九八七年十一月
- 「中華民國臨時約法の産生与宋教仁（遲雲飛訳）」『国外中国近代史研究』二二輯 一九九三年三月
- 「宋教仁論——我は第十子孫のいち個人なり——（一）、（二）」『立命館文学』五五二号、五六一号 一九九八年、一九九九年（未完）
- 「胡瑛について」『立命館東洋史学』二十二号 一九九九年七月
- 「公開された秘密黨員——楊度の入党をめぐって——（上）、（中）、（下）」『立命館東洋史学』二十六、二十七、二十八号 二〇〇三年〜二〇〇五年
- 「ある追悼文——西安事変前後の周恩来・張沖、そして潘漢年——」『立命館東洋史学』二〇〇七年七月
- 「周恩来の誤算——顧順章事件の真相——」『立命館文学』五九八号（『清水凱夫教授退職記念論集』）二〇〇七年七月

## 書評・評論・その他

- 「黄興・宋教仁をめぐって」『東亜』一八四号 一九八二年
- 「孫文の少数精鋭主義」人類の知的遺産六三 堀川哲男著『孫文』月報六四号 一九八三年九月（評論）
- 「出席紀念辛亥革命七十周年武漢學術會議瑣記（遲雲飛訳）」『国外辛亥革命史研究動態』第一輯 一九八三年四月
- 「高田淳著 辛亥革命と章炳麟の齊物哲学」『中国研究月報』四四五号 一九八五年三月（書評）
- 「生誕一二〇周年の孫文」『孫文研究』七一 一九八七年十一月（評論）
- 「中国近代人物評価の再検討」『創文』二八一号 一九八七年十月（評論）
- 「封建的思想から社会主義思想へいっきに駆け抜けた政治家の著作集——楊度集」『東方』七七号 一九八七年八月（書評）
- 「河田悌一著 中国近代思想と現代」『東亜』一二三三号 一九八七年三月（書評）
- 「西園寺文庫所蔵の莊原和著 新学偽経考弁について」『立命館東洋史学会会報』七号 一九八四年七月（評論）

竹内実編著『中国を読むキーワード』蒼蒼社一九九〇年五月「人治」の項を執筆 原載読売新聞「大阪本社版」一九八九年十月四日夕刊（評論）

「孫文評価の新しい観点」『東方』一一九号一九九一年二月

「変わらぬ中国知識人の世界観」『アジア時報』一九九一年七月

「中国型指導者―孫文・黄興、そして毛沢東―」『撰陵』一三〇号一九九四年十一月

「宋教仁―アジアで最初の共和国憲法をつくった人―」『月刊しにか』六卷三号一九九五年六月

「立命館大学図書館蔵『愛新覚羅宗譜』に寄せて―失われた民族、満州族の栄光と悲劇―」『図書館だより』七七号一九九七年二月

山田辰夫編『近代中国人名辞典』霞山会、一九九五年九月「宋教仁」、「孫毓筠」の項を執筆